

平成30年度 第2回 長野市学校給食センター等運営審議会 議事要点

期 日：平成30年12月11日（火）

開会時刻：午後2時

閉会時刻：午後3時

会 場：長野市第四学校給食センター

出席者：40名（委員20名、事務局20名）

傍聴者：2名

1 開 会

2 あいさつ

- ・永井教育次長
- ・千野会長

3 諮 問

- ・平成31年度給食費について

4 審 議

- ・「平成31年度給食費について」
＜資料に基づいて事務局から説明＞

- ・質疑応答

| 発言者 | 内 容 |
|-----|---|
| 委 員 | 給食費の中で牛乳代は比率として大きい。飲めない児童生徒には強制して最後まで飲ませないため、毎回大量に残されると聞いている。牛乳の飲用を選択制にできないか。 アレルギーなどの理由でなく牛乳を飲まない場合は牛乳代を返金されないケースが多いが、そういったことは法的に決められているのか。 |
| 事務局 | 給食費の構成比で牛乳代が占める割合は決して低くないことは認識している。しかし、文部科学省から示されている学校給食実施基準において「学校給食の無い日はカルシウム不足が顕著でありカルシウム摂取に効果的で |

| | |
|-----|--|
| | <p>ある牛乳の使用に配慮すること」と示されているため、効果的にカルシウムが摂取できることから今後も牛乳の提供は継続したい。</p> <p>牛乳飲用の選択については児童生徒の体調等もあるため、強制的に飲ませることにもいかないので、学校とご相談いただきたい。</p> |
| 委員 | 牛乳代の返金は学校側の判断に委ねられているということか。 |
| 事務局 | <p>牛乳の飲用停止については、医師からの診断は出ていないが体の調子で飲めないなど様々な理由がある。例えば好き嫌いというケースもあるため、どこまで対応できるのか難しい問題である。保護者としてしっかりと話し合いの上で決まったことには対応できるが、どの程度まで認めるかは個々の様々なケースがあるため学校へご相談いただきたい。学校で対応に苦慮することがあれば学校を通じて教育委員会に相談があると思う。</p> <p>現時点では、児童生徒の状況に応じてご相談をいただく中で、学校と話し合いを持っていただきたい。</p> |
| 委員 | <p>学校では、医師の診断までいかないが体の調子で牛乳を止めたいという児童生徒がいる。その場合は、保護者としてしっかりと話し合いの上で、止めた場合についてはきちんと返金している。</p> <p>ただ、その日の調子で飲みたい飲みたいというケースがあるが、そういうことは対応しかねるということで保護者としてしっかりと合意しており、年間を通して飲用停止にすることでお願いしている。</p> |
| 委員 | <p>5年間据え置きにさせていただいたということだが、更に据え置きを続けてほしい。日常生活でも物価が上昇して食材費等が値上がりしている。更に消費税が増税になると、保護者にはつらい状況になる。</p> <p>給食費値上げは、子どもを育てやすい環境とは逆行しているように思われるため、各家庭の負担軽減のため市で補助をしたらどうか。</p> <p>文部科学省が7月に公表した資料によると、全国で76市町村が給食費無償化を実施している。</p> <p>今後の消費税増税を見込むと、増税前の給食費値上げは、各家庭に与える影響が非常に大きい。これまで据え置いていただいたことはありがたいが、無償化まではいかなくても、もうしばらくの期間据え置いていただけるとありがたい。</p> |
| 事務局 | <p>給食費無償化については12月議会でも質問をいただいているが、実施するには予算が非常に大きくなるため、現時点では無償化や補助は考えていない。実際に無償化を行っている自治体は、比較的規模の小さな自治体だが、継続的な財源の確保が課題とお聞きしている。</p> <p>経済的に困難な家庭については、就学援助制度により給食費を支給している。</p> |
| 事務局 | 野菜は数年前に比べると、同じ金額でも納品される野菜の質が落ちている。 |

| | |
|-----|---|
| | <p>例えば、形が歪であったり、表面に小さな穴が開いているリンゴ、曲がっているきゅうりや大根などがある。</p> <p>給食センターでは機械で野菜を切るが、野菜が曲がっていると作業効率が悪くなる。また、衛生管理基準に基づいた洗い方や処理をするため、そのような野菜や果物だと大変である。</p> <p>果物の形が歪だとカットしたときに大きさが違ってしまう。また、表面に穴が開いている果物を切ると、芯が黒くなっていたりするため、調理員が取り除くなど努力をしている。</p> <p>給食は約2時間で調理をしなければならず、限られた時間と人員で様々な工夫をする中で給食の提供ができています。現在の給食費の算出にはこのような野菜や果物を使用していることは表れていないため、このようなことも考慮していただければありがたい。</p> |
| 事務局 | ベーコンやハムを使用したい献立でも、価格が高いため、他の食材で対応することがある。 |
| 事務局 | 野菜の価格が上昇しているため、単価の安い野菜を選ばざるを得ない。魚の価格も上昇しており、もう少し多く献立に魚を取り入れたいが、使用を抑えて煮物や炒め物で提供している。 |
| 委員 | <p>学校給食には育ち盛りの児童生徒の身体を作るという役割がある。保護者の負担増が大変という気持ちも分かるが、献立の工夫により魚や野菜の可食量が減少していることは、その分補えない栄養素があるのかと思う。</p> <p>このことは、食べている児童生徒の栄養状態に一番しわ寄せがきていると考えられる。主食と牛乳の単価上昇分を副食の費用に充てられないことは、育ち盛りの児童生徒に必要なたんぱく質やカルシウム、ビタミンが不足しているということになる。大人になって健康な体でいるためには、小中学校での身体作りが大切であることを考慮する必要がある。</p> |
| 委員 | <p>現在の給食費でダシからとっていただき、栄養面も考えて作っておられるとお聞きした。</p> <p>魚があまり使用できなかったときに、他の食材でカルシウムやたんぱく質などを補っているということでしょうか。</p> |
| 事務局 | 完全に補うことは難しいが、大豆（豆腐、厚揚げ）を使用したり、野菜では青菜・小松菜を使用するなど工夫をして、栄養素を補っている。 |

- ・ 次回の審議会にて答申